

令和7年度 1学年

シラバス

科目内容紹介



長野県蘇南高等学校

総合学科

1年 組 番 氏名

教科	教養	科目名	産業社会と人間	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	自身と生まれ育った地域を見つめ直し、高校でどのような学びによって進路実現すべきかを模索しながら主体的に学ぶ姿勢を養う。さらに、その先の人生も含め、キャリア・デザインし続けることの重要性を理解する。						
目指す資質・能力	知識・技能	自身や身の周りの現状を自分ごととしてとらえ、多角的に課題の発見・解決のヒントになる知識を吸収する姿勢					
	思考・判断・表現	自身の考えのみならず他者の考えを聞くなかで、多様な考え方があることを理解・尊重する柔軟な人間力					
	主体的に学習に取り組む態度	世界・日本・地域の人々の未来のしあわせを想像し、社会に積極的に関わろうとする態度と考えた通りに実現しないことがあっても挫けない自己回復力					
使用教科書	なし			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	1 オリエンテーション	2	5 ふるさと探究学－地域理解－(つづき) ・ふるさと研修旅行 ・ふるさとで生きる①(講演会・対話)	16
	2 他者理解 ・仲間づくりWS ・高校で何を学ぶのか	4	6 ふるさと探究学－社会認識－ ・ふるさとで生きる②(地域企業調べ・インタビュー) ・企業調べ発表会	20
	3 自己理解 ・自分史・私の履歴書の作成 ・学年展示・学年発表会	14		
	4 履修計画 ・系列説明会・模擬授業 ・科目説明会および相談会	8		
	5 ふるさと探究学－地域理解－ ・南木曽町の魅力を創造しよう	6		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	事前・事後学習におけるワークシートの提出
	思考・判断・表現	感想記入用紙の提出、展示・発表に向けた制作物(自分史、ポスター)への取り組み
	主体的に学習に取り組む態度	展示・発表に向けた制作物(自分史、ポスター等)への取り組み、ペアやグループ活動への取り組みの様子
学習にあたっての注意とアドバイス	・学びに対しては、「自分ごと」として取り組もう。 ・欠席をせず、ペアやグループでの活動に積極的に参加しよう。 ・ワークシートや感想記入用紙等の提出物は、期限を守って提出しよう。	

教科	国語	科目名	現代の国語		年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件	全員				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項を理解することを通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場に応じて情報を聞いたり読んだりし、目的や意図に応じて伝えたいことを話したり書いたりすることで、唯一解がなくても最適解を判断する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	標準 現代の国語(第一学習社)			使用副教材	・LT現代文基本(浜島書店) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	世界を広げる 話し方の工夫 待遇表現 論理的な表現	12	社会と人間 相手に伝える案内をする 理想の修学旅行をプレゼンする 合意形成のための話し合いを行う	17
	言葉が開く世界 情報の探索と選択 情報源の明示 スピーチで自分を伝える	8	第3回考查	18
	第1回考查 人間と文化 書き方の基礎レッスン 身近な製品の取り扱い説明書を作成する 実用的な手紙文の書き方	15	現代と社会 生活の中の表現 地域の魅力を紹介する 自校の生徒の生活実態を調査する 社会に対する意見文を書く	
	第2回考查		学年末考查	
合 計				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考查の得点の合計、もしくは、定期考查の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話をしっかり聞き、ノートをきちんと取る。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 毎時間漢字の小テストを行うため、漢字練習をしっかり行う。(語彙を増やすことにもなる。) わからない単語は辞書で調べるなど、語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 課題の提出期限を守る。	

教科	国語	科目名	言語文化		年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件	全員				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	古文・漢文・文学的文章にふれることで、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。							
目指す資質・能力	知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項を理解することを通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。						
	思考・判断・表現	目的や場に応じて情報を聞いたり読んだりし、目的や意図に応じて伝えたいことを話したり書いたりすることで、唯一解がなくても最適解を判断する力を身につける。						
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者を尊重して協働する力を身につける。						
使用教科書	標準言語文化(第一学習社)			使用副教材	・常用漢字ダブルクリア五訂版(尚文出版) ・カラー版新国語便覧(第一学習社)			

凡例 【文】…近現代の文学的文章 【古】…古典の古文分野 【漢】…古典の漢文分野

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	【文】小説を読む とんかつ		6	【古】随筆を読む 枕草子(形容詞・形容動詞) 徒然草(用言)		8
	【古】古文入門 児のそら寝(歴史的仮名遣い)		3			
				【文】小説を読む 一作品		6
	【漢】漢文入門 訓読に親しむ		3	【古】和歌と俳諧	第3回考查	3
	【文】散文にふれる 詩数篇 短歌・俳句	第1回考查	4	【古】歌物語を読む 伊勢物語		9
	【文】小説を読む 羅生門		8	【古】軍記物語を読む	学年末考查	9
	【古】古文に親しむ なよ竹のかぐや姫(動詞)		7			
	【漢】漢文に親しむ 故事成語	第2回考查	4	合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考查の得点の合計、もしくは、定期考查の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話をしっかり聞き、ノートをきちんと取る。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 毎時間漢字の小テストを行うため、漢字練習をしっかりと行う。(語彙を増やすことにもなる。) わからない単語は辞書で調べるなど、語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 課題の提出期限を守る。	

教科	地理歴史	科目名	地理総合		年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必修 ・ ☐ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力をつける。							
目指す資質・能力	知識・技能	人々の生活文化が地理的環境の影響で多様性を持つこと、また、地球的課題の傾向・自然災害との関連性等について理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能をつける。						
	思考・判断・表現	諸資料を適切に使い、世界から見た日本の位置や国内・国家間の結びつき、持続可能な社会づくり、地域性を踏まえた防災などについて、学んだ知識を活用して思考する力。						
	主体的に学習に取り組む態度	地域的諸課題や地球的諸課題について、自分ごととしてとらえその解決の方向性を追究し、学んだことが未来につながることを想像する力。						
使用教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新高等地図(東京書籍)			使用副教材	図説地理資料 世界の諸地域NOW2025(帝国書院)			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	1. 地図と地理情報システム 地球上の位置と時差、地図の役割と種類	10	3. 生活文化の多様性と国際理解(後半) 世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活 世界の産業と人々の生活	18
	2. 結びつきを深める現代世界 現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	12	第3回考查	
	第1回考查		4. 地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題、資源エネルギー問題 人口問題、食料問題、都市・居住問題	8
	3. 生活文化の多様性と国際理解(前半) 生活文化の多様性 世界の気候と人々の生活	14	5. 自然環境と防災 日本の自然環境、地震・津波と防災 火山災害と防災、気象災害と防災 自然災害への備え	8
	第2回考查		学年末考查	
	合 計			70

履修要件	1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。(50%程度)
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度)
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。 ・様々な作業・統計資料のグラフ化・模式図の作成などで、地理の様々な現象を視覚的にとらえることができます。面倒くさがらずに取り組んでください。	

教科	地理歴史	科目名	歴史総合	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	社会事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	近現代の歴史変化に関わる諸事情について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野からとらえ、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを基に自ら問いをたてて探究する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的につい追求、解決しようとする態度を養うとともに、学びを自己調整する力を身に付ける。					
使用教科書	詳述歴史総合(実教出版)			使用副教材	問いからはじまる歴史総合(とうほう)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化 第4章 帝国主義の時代 第1回考查	25	第6章 経済危機と第二次世界大戦 第3回考查 第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界 学年末考查	15 20
	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第2回考查	10		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・過去の出来事に興味を持ち積極的に学ぼうとすること。 ・気になったことは自ら調べ、様々な教科と関連付けること。	

教科	数学	科目名	数学 I	年次	1 年	単位数	3
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	高等学校数学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学 I Standard (東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学 I + A (東京書籍)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 数と式 式の計算 実数 1次不等式	25	第4章 図形と計量 鋭角の三角比 三角比の拡張 三角形への応用	30
	第2章 集合と命題 集合 命題と論証	10	第5章 データの分析 データの分析 データの分析の応用	20
	第3章 2次関数 2次関数とそのグラフ 2次方程式と2次不等式	20	仮説検定の考え方	
	合 計			105

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	以下の観点を経合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる	
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く		

教科	数学	科目名	数学A	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育む。						
目指す資質・能力	知識・技能	確率統計学や幾何学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学A Standard(東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学 I + A(東京書籍)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 場合の数と確率 集合と場合の数 確率とその基本性質 いろいろな確率	35	第2章 図形の性質 三角形と比 円の性質 空間図形 第3章 数学と人間の活動 数える はかる 遊ぶ	20 15
	第1回考査 第2回考査		第3回考査 学年末考査	
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる	
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」ために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く		

教科	理科	科目名	化学基礎	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件	1年生全員必履修			
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み、物質とその変化に主体的に関わることで、科学的に探究しようとする態度を養う。	
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学基礎』	使用副教材	浜島書店『基本ステップノート化学基礎』

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 物質の構成		11	溶解と濃度 化学変化と化学反応式		15
	第1節 物質の成分と構成元素 物質の成分・構成元素 状態変化と熱運動			第2節 酸と塩基の反応 酸と塩基 水素イオン濃度	第3回考查	
	第2節 原子の構造と元素の周期表 原子の構造 元素の相互関係	第1回考查		中和と塩 中和滴定		
	第3節 物質と化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 共有結合の結晶 分子からなる物質の利用 金属と金属結合 結晶の比較		12	第3節 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤の反応 酸化還元の量的関係 電池 金属の製錬 電気分解		16
		第2回考查			学年末考查	
	第2章 物質の変化		16			
	第1節 物質量と化学反応式 原子量・分子量と式量 物質量					
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	保健体育	科目名	体育	年次	1 年	単位数	3
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	集団行動を身に付け、体力の向上を図るとともに、健康、安全や運動について理解を深めて、計画的に運動に親しめるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	・競技に求められる運動特性などを理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける					
	思考・判断・表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するため、知識を活用して思考する力 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力					
	主体的に学習に取り組む態度	・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力					
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション・体ならし 体力づくり(ランニング) クラスマッチに向けて 体づくり運動 新体力テストを活用して運動計画を立てる 体育理論 スポーツの発祥と発展 球技① 男子:ソフトボール 女子:ソフトボール 体育理論 スポーツの発祥と発展 ダンス 創作ダンス	12 10 1 13 3 14	球技② クラスマッチに向けて 体育理論 スポーツの発祥と発展 球技③ 男子:バレーボール 女子:バレーボール 球技④ 男子:卓球 女子:卓球 体育理論 スポーツの発祥と発展 球技⑤ 男子:バドミントン 女子:バドミントン	8 1 14 14 1 14
合 計				105

履修要件	1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト(体育理論)	
	思考・判断・表現	・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・準備・片付け、他者との協力の様子 ・運動量	
学習にあたっての注意とアドバイス	・実技科目であるため、出席し、積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。		

教科	保健体育	科目名	保健	年次	1 年	単位数	1
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営むために、個人及び社会における健康・安全について理解を深め、自他や社会における健康課題を発見し、合理的に解決する方法を実践したり他者に伝える能力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」にかかわる用語等を理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける					
	思考・判断・表現	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」にかかわる事象から課題を発見し、自ら問いをたてて探求する力					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を実生活や社会の動きに重ね合わせ、未来の自分を創造する力					
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	【1単元】現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 第2回考查	18	【1単元】現代社会と健康 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 【2単元】安全な社会生活 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法 学年末考查	17
	合 計			35

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・定期考査・提出課題	
	思考・判断・表現	・「保健ノート」の取り組み内容 ・定期考査・各種課題の取り組み内容	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、早退、忘れ物の回数 ・授業への取り組みの様子	
学習にあたっての注意とアドバイス	・授業ノートの提出を定期的に行っているため、板書の書き取りや穴埋め問題などをしっかりと行い、積極的に授業に参加すること。 ・保健は1単位の授業で年間授業数が少ないため、欠課数が基準を超えないように十分に気を付けること。		

教科	音楽	科目名	音楽Ⅰ		年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必修 ・ ☐ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備		☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員					

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					
使用教科書	MOUSA1(教育芸術社)			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	【歌唱】 校歌 花 夏の思い出 Caro mio ben(イタリア歌曲)	12	【歌唱】 Ich liebe dich(ドイツ歌曲) この道 合唱曲	8
	【器楽】 リコーダー「見上げてごらん夜の星を」	8	【器楽】 アコースティック・ギター「第三の男」	16
	【鑑賞】 「ボレロ」 オペラ「カルメン」	8	【鑑賞】 世界の諸民族の音楽 雅楽	8
	【楽典】 音名と音部記号 音符と休符、拍子、リズム	6	【創作】 ボディーパーカッション	4
合 計				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。 ・歌唱や器楽等の実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・普段から自国や諸外国の文化や歴史について関心を持ち、自身の感性を磨くこと。	

教科	芸術	科目名	美術 I		年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☒ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
目指す資質・能力	知識・技能	美術の歴史や文化を学び、対象を観察し、幅広い美術の表現方法から選択して制作する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。						
	思考・判断・表現	感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る過程で、唯一解がなくても最適解を判断する力を養う。						
	主体的に学習に取り組む態度	主題を追求し、表現方法の試行錯誤を続ける力を養う。						
使用教科書	高校生の美術1(日本文教出版)			使用副教材	なし			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション 観ること 描くこと	4	立体演習 陶芸続き	7
	刃物の基本 カッターナイフの使い方	2	版画 ドライポイントプレート	13
	絵画基礎 水張り クロッキー 鉛筆素描/基本形態 鉛筆素描/写真模写	20	立体演習 ピュータでつくる小さなペーパーウェイト	5
	立体基礎 形体の理解 三面図の読み方(演習) 陶芸	9	デザイン基礎 色彩構成	10
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手いかわいさ、考えること・行動することを持続しよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。	

教科	外国語	科目名	英語コミュニケーション I		年次	1 年	単位数	3
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件					
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備				☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、4技能5領域を総合的に用いた学習を通じて、日常的・社会的な話題について、目的や場面、状況に応じて適切なコミュニケーションを図る態度・技能を身に付ける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことを通じて、外国語および人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考えの核心を伝え合ったりできるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
使用教科書	BIG DIPPER English Communication I (数研出版)			使用副教材	単語帳DataBase3300 (桐原書店)		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast		10	Lesson 7 The Maldives: A Dream Destination?		10
	Lesson 2 A Mascot with a Mission		10	Lesson 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream パフォーマンステスト		10
		第1回 考査			第3回 考査	
	Lesson 3 Two Kinds of Leadership		10	Lesson 8 From Recycle to Upcycle		10
	Lesson 4 Older Sports and Newer Sports パフォーマンステスト		10	Lesson 10 Diversity at Japanese Companies 総まとめ		10
	Lesson 5 AI Meets the Arts		10	パフォーマンステスト		5
		第2回 考査			学年末 考査	
	Lesson 6 What Is Happiness? パフォーマンステスト		10			
	合 計					105

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・辞書ないしそれに類する機能を有する器具を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・積極的に英語を使った表現を模索し、また自他のことを理解したりしようとする事。 ・教科書の予習・復習や定期的に実施する単語テストなどに向けて、学習習慣の確立および継続的な改善すること。	

教科	外国語	科目名	論理・表現 I	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必履修 ・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☒ 四大文系 ・ ☒ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、基本的な文法及び語法を用いて、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりする力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。					
使用教科書	BIG DIPPER English Logic and Expression I			使用副教材	BIG DIPPER English Logic and Expression I レッスンブック		

	前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	PART 1					
	Lesson 1	「だれが」「～する」をはっきりと	2	Lesson 13	Advics	3
	Lesson 2	動詞をうまく使おう	2	Lesson 14	Hobbies	3
	Lesson 3	名詞の数などに気をつけよう	2	Lesson 15	My Vacation	3
	Lesson 4	My Friends	3	Lesson 16	In a Zoo	3
	Lesson 5	My Family	3	Lesson 17	Our Team	3
	パフォーマンステスト		2	パフォーマンステスト		3
	第1回考查			第3回考查		
	Lesson 6	Pastime	3	Lesson 18	Neighbors	3
	Lesson 7	My Town	3	Lesson 19	Speeches	3
	Lesson 8	Our Teachers	3	Lesson 20	My Wish	3
	Lesson 9	Visiting a Museum	3	Lesson 21	A Birthday Gift	3
	Lesson 10	Famous People	3	パフォーマンステスト		2
	第2回考查			学年末考查		
	Lesson 11	Reading	3			
	Lesson 12	Studying Abroad	3			
	パフォーマンステスト		3			
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考查、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考查、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考查、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	- 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 - 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 - 教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。	

教科	家庭	科目名	家庭基礎	年次	1 年	単位数	2
履修区分	☒ 必修・ ☐ 選択		選択条件				
対象者	☐ 四大文系 ・ ☐ 四大理系 ・ ☐ 教養 ・ ☐ 就職準備			☐ 文理 ・ ☐ 経ビ ・ ☐ もの ・ ☒ 全員			

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。					
使用教科書	新図説家庭基礎(実教出版)			使用副教材	ニュービジュアル家庭科資料＋成分表(実教出版) おとなドリル(教育図書)		

	前 期		時間	後 期		時間
	授業内容オリエンテーション		1	消費者として自立する		3
年間学習計画	食生活を作る 炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン その他の食品 必要な栄養素量 第1回考查		12	住生活を作る 人と住まいの歴史 住まいの選択		5
				人とのかかわって生きる 人生80年を見通す 労働について考える 家族に関する法律の理念と背景 子どもとかかわる 高齢者とかかわる 第3回考查		18
			18	食生活を作る 調理実習		5
	衣生活を作る 衣服の機能 衣服素材の性能 衣服の手入れ 被服実習 第2回考查			1年間のまとめ 学年末考查		4
	消費者として自立する 主体的な消費行動と契約		4			
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 考查と提出物の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出・実習態度による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある)	